

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 正負の数の四則計算が定着していない。 イ 具体的な場面で活用できない。	ア ドリルや課題で繰り返し同じ問題を出題する。小テストを何度も行い、計算の仕方を理解し、できるようになる達成感を味わってもらう。 イ 効率よく平均を求める活動など、数学的な技能を日常で使える場面を設定する。	ア 市学力調査【知識・技能】 正答率66.7% イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率17.5% 所見 正負の数の四則計算では、特に、除法が定着していないことが分かった。
第2学年	ア 基礎的な原理・法則を理解できていない。 →正負の数・文字式・方程式の計算ができない。 イ 文章を式化したり、題意をくみ取りある数量を数や文字で表現することができない。	ア 授業の導入5分間を使い、毎回の計算練習を行う。 イ 授業内でことある毎に教え合いの時間を設け、数学的な表現をさせる機会を多く設ける	ア 市学力調査【知識・技能】 正答率 55.1% イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率 35.1% 所見 毎時間の計算練習の成果は出ていて、計算力は高まっている。
第3学年	ア 四則演算の計算速度が遅く、手順の多い計算処理に対処することができない。 イ 文章題の内容と図やグラフを関連づけることができない。	ア 計算練習を課題として繰り返し実施する。短時間の小テストを実施する。 イ 授業で文章の内容と図やグラフとの関係性について、色マーカーを効果的に用いてまとめる指導を重ねていく。	ア 所見 正負の数から連立方程式までの計算は定着したが、展開、2次方程式の計算が定着していない イ 所見 指示することで文章と図を関連づけることができるが、生徒だけでは関連付けることができず、別な手立てを検討していく。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：個別最適な学びとして、eライブラリを用いて自分の苦手な単元を中心に学習したり、協働的な学びとして、自分の考えをスライドにまとめて他の人と共有したり、共同編集して考えを深めていく活動に活用する。 2年：学習ソフト「ネットレ」を活用し、（特に単元末には）タブレット学習の時間を組み込んでいる。 3年：関数の発展問題についてグラフ作成ソフトを用いて解決する。	1年：eライブラリを用いて、自分で訓練したい単元を選び、取りこぼしたところを振り返る。 2年：定期考査後に「やり直しレポート」を自由課題として年間5回提出。 3年：自分で練習したい単元や達成度が低い単元などを重点的に練習できる「自宅学習ファイル」の課題を実施する。